

学校名	茅ヶ崎看護専門学校		学科名	看護学科	開講年度	2025年度
授業科目名	病理学総論			担当教員	石井 映幸	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年後期	
授業形態	講義	実務経験の有無・職種・年数			実務経験：有、病院勤務（医師）：31年	

授業概要

正常な人間の構造と機能を理解した上で、病気の原因・発生機序・病態について学ぶ。総論として、細胞・組織の障害と修復循環障害、炎症と免疫、移植と再生医療、感染症、代謝障害、老化と死、先天異常と遺伝子異常、腫瘍ならびに器官系統別の疾患を各論として学習する。

到達目標

1. 病気の原因・発生機序・病態について説明することができる。
2. 症候論から見た病態を説明することができる。

回数	単元	内容
1	病理学とは	病気の成り立ち
2	循環障害	体循環と肺循環 浮腫の原因 門脈循環
3	循環障害	血栓、塞栓、梗塞、虚血、充血、うっ血
4	循環障害	チアノーゼ、ショックの分類、DIC
5	炎症	炎症の徴候、発症機序
6	炎症	アレルギーの分類
7	免疫疾患	免疫システムについて
8	免疫疾患	膠原病について
9	代謝異常	脂質異常症、肥満
10	代謝異常	糖代謝異常、動脈硬化症、痛風
11	先天異常	先天異常と遺伝子異常
12	先天異常	胎児異常、遺伝子異常、染色体異常
13	腫瘍	腫瘍の発生
14	腫瘍	良性と悪性、ステージ分類
15	評価	客観テスト・解説

評価	客観テストによる評価 100%
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学（医学書院） 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学（医学書院）
参考図書など	疾病のなりたち（医学書院）

学校名	茅ヶ崎看護専門学校		学科名	看護学科	開講年度	2025年度
授業科目名	老年看護学概論			担当教員	小泉由香里	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年 前期 後期	
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、病院勤務（看護師）9年		
授業概要						
老年看護の対象である老年期を生きる高齢者の身体的・精神的・社会的・Spiritualの特徴をとらえ、高齢者とその家族の生活像を知り、老年看護の対象理解を促進し看護の役割を学修する。また、高齢者の置かれている現状と社会保障を知り、高齢者の生活機能を整える看護を考えられるように学修する。						
到達目標						
1. 「加齢」「老化」「老年期」「高齢者」「生活機能」の概念を説明することができる。 2. 高齢者の統計的特徴をふまえ、身体的・精神的・社会的・Spiritualの特徴について説明することができる。 3. 高齢者疑似体験を通して、高齢者の日常生活活動について考察することができる。 4. 高齢者と家族の暮らしについて、社会の変遷をふまえ、その特徴を説明することができる 5. 高齢者の生活・療養の場における看護の役割について表現することができる。						
回数	単元		内容			
1	第1章 老いるということ、老いを生きるということ（1）		1. 授業ガイダンス 2. 老年看護を学ぶ入口 「老いる」ということ			
2	第2章 老いるということ、老いを生きるということ（2）		1. 老いを生きるということ			
3	第3章 超高齢社会と社会保障（1）		1. 超高齢社会の統計的輪郭 2. 高齢社会における保健医療福祉の動向 3. 高齢者の権利擁護			
4	第4章 超高齢社会と社会保障（2）		1. 超高齢社会の統計的輪郭 2. 高齢社会における保健医療福祉の動向 3. 高齢者の権利擁護			
5	第5章 超高齢社会と社会保障（3）		1. 老年看護の役割 2. 老年看護に携わる責務			
6	第6章 老年看護のなりたち（1）		1. 老年看護における理論の活用：講義			
7	第7章 老年看護のなりたち（2）		1. 老年看護における理論の活用（ICF）：演習 演習後課題レポート			
8	第8章 ヘルスアセスメント（1）		1. ヘルスアセスメントの基本			
9	第9章 ヘルスアセスメント（2）		1. 身体に加齢変化とアセスメント 皮膚系、視聴覚系、循環器系			
10	第10章 ヘルスアセスメント（3）		1. 身体に加齢変化とアセスメント 呼吸器系、消化器系、ホルモン系、運動系など			
11	第11章 高齢者疑似体験		1. 高齢者疑似体験演習：高齢者疑似体験の装着 演習後課題レポート			
12	第12章 エンドオブライフケア		1. 高齢者におけるエンドオブライフケア・生への支援 2. 意思決定支援・アドバンスケアプランニング			
13	第13章 生活・療養の場における看護（1）		1. 高齢者とヘルスプロモーション 2. 保健医療福祉施設・居住施設			
14	第14章 生活・療養の場における看護（2）		1. 高齢者とヘルスプロモーション 2. 保健医療福祉施設・居住施設 多職種連携実践等			
15	評価		客観テスト・解説			

評価	客観テストによる評価90% 課題レポートによる10%の総合評価		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 【第 10 版】（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 【第 6 版】（医学書院） 国民衛生の動向 【2025/2026】（厚生労働系統協会）		
参考図書など	適宜紹介する		

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2025年度
授業科目名	精神看護学概論		担当教員	橋本 貴	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年 後期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、病院勤務（看護師）22年	

授業概要

本科目では、精神看護の実践の基礎となる、心のしくみと働き、心の発達と精神の健康問題、精神の健康問題が人々の生活に及ぼす影響、また精神医療・看護の歴史の変遷、倫理と人権、精神保健福祉に関する法律と制度について学習し、精神看護の基本的な考え方、役割を学ぶ。授業方法は、講義を主として展開する。

到達目標

- 1 心の健康の保持・増進について、また心の健康に影響を及ぼす因子について理解することができる。
- 2 心の構造について理解し、心の成長について理解することができる。
- 2 精神障がい者の処遇と医療、看護の歴史を学び現在の問題点と今後の展望について考えることができる。
- 3 精神保健・医療・福祉の法律や制度を理解する。
- 4 精神看護の対象及び対象に現れる精神症状の特徴を理解する。

回数	単元	内容
1	精神看護とは	精神看護に対するイメージ、対象に対するイメージ、心の健康とは何かということについて現在の自身の考えを表現する。
2	脳と心	心（精神）とは何か。精神と脳の関係について学ぶ
3	心の健康とは①	健康という視点から心の健康とは何か、心が健康であるためには何が必要かを学ぶ
4	心の健康とは②	心の健康に影響を及ぼす因子、心の健康を守るための精神保健について学ぶ
5	心の構造	心の実態について学ぶ。意識・無意識・前意識、自我、超自我、エス
6	精神医療の歴史①	精神医療の成り立ち、精神医療が歩んできた暗黒の歴史について学ぶ
7	精神医療の歴史②	日本の精神医療の成り立ちと暗黒の歴史、どのような過程で制度が変化していったのかを学ぶ
8	精神保健福祉法①	精神医療を取り巻く法律について学ぶ。精神保健福祉法の目的について学ぶ
9	精神保健福祉法②	入院形態、行動制限について学ぶ
10	精神保健福祉法③	患者の人権を守るための仕組みについて学ぶ
11	精神症状① 思考の障害	思考の障害について学ぶ
12	精神症状② 感情の障害、知覚の障害、意欲の障害	感情の障害、知覚の障害、意欲の障害について学ぶ
13	精神症状③ 意識の障害、記憶の障害、知能の障害	意識の障害、記憶の障害、知能の障害について学ぶ
14	精神看護を行う上で必要なもの①	精神看護の土台となるものについて学ぶ（患者-看護師関係）
15	評価	客観テスト・解説

評価	客観テストによる評価100%
教科書	【第6版】 系統看護学講座 専門分野2-〔22〕 精神看護学 1 精神看護の基礎（医学書院）
参考図書など	適宜紹介する

学校名	茅ヶ崎看護専門学校		学科名	看護学科	開講年度	2025年度
授業科目名	成人看護学概論			担当教員	山本 君子	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年 後期	
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数			実務経験：有、病院等勤務（看護師14年）	

授業概要

成人期は、人生の中で多様性、複雑性に富んだ社会生活を営んでいる。それゆえ、成人期にある人々の特徴についてライフサイクルの視点から対象を深く広く理解する。また、成人期に特有な健康問題および各健康レベルに応じた成人看護の基本的な理論ならびに概念を学び、多様な看護観について学修する。具体的には、ライフサイクルの視点から成人期の特徴と発達課題、成人期の生活と健康、現代社会における健康問題や政策など様々な方向から動向を探り、対象の状態に応じた看護アプローチ、倫理的判断について学ぶ。

到達目標

1. ライフサイクルにおける成人期の特徴と、生活環境、健康問題について述べることができる。
2. 成人期にある対象の健康保持増進、疾病予防の意義と看護の役割について説明することができる。
3. 成人期にある対象への看護アプローチの基本的な理論と概念について説明することができる。
4. 各健康レベルに応じた健康教育の特徴とその援助方法について説明することができる。

回数	単元	内容
1	成人期の特徴と対象理解	1. 生涯発達とは 2. ライフサイクルからみる成人期の特徴と生活（ディスカッション・グループワーク）
2	成人期にある人の理解の重要性と看護の役割	1. 各期の身体的・心理的・社会的特徴 2. 成人保健の特徴と成人にとっての健康の意味（ディスカッション・グループワーク）
3	成人をとりまく状況と健康問題	1. 成人期に健康障害をおこす要因 2. 健康障害がもたらすライフサイクルおよび身体的・心理的・社会的影響（ディスカッション・グループワーク）
4		
5	成人期の基本的な看護アプローチと理論（1）	1. ヘルスプロモーションの歴史、特徴、意義 2. 関係を結ぶための看護（ケアリング、エンパワメントなど）（ディスカッション・グループワーク）
6		
7	成人期の基本的な看護アプローチと理論（2）	1. 適応を促す看護（ストレス・コーピング、危機理論など） 2. 発達を促進する看護（セルフケア理論・アンドラゴジー）（ディスカッション・グループワーク）
8		
9	健康レベルからみた成人看護（1）	1. 慢性期看護の対象と看護（ディスカッション・グループワーク）
10	健康レベルからみた成人看護（2）	1. クリティカルケア - 急性期看護 - の対象と看護（ディスカッション・グループワーク）
11	健康レベルからみた成人看護（3）	1. 周手術期の生体反応及び看護の実際と看護師の役割（ディスカッション・グループワーク）
12	行動変容計画立案	1. 行動変容計画カンファレンス（ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション準備）
13	特殊な状況にある対象の看護	1. 人生の最終段階にある対象と看護（終末期ケア、緩和ケア、グリーフケアなど）（ディスカッション・グループワーク）
14	行動変容計画結果発表 成人看護学概論 まとめ	1. 立案・実行・評価した結果（グループワーク・プレゼンテーション） 2. 授業の重要ポイントを振り返り
15	評価	客観テスト・解説

評価	客観テストによる評価 70% ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーションの取り組み30% 合計：100%（提示された課題に取り組んでいない場合、減点対象となる）
教科書	系統看護学講座専門分野 成人看護学総論 【第15版】医学書院 看護のための人間発達学【第5版】医学書院 看護学テキスト NiCE ヘルスアセスメント【改定第3版】南江堂 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学 医学書院 公衆衛生がみえる 2024 - 2025 メデックメディア
参考図書など	適宜紹介する

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2025年度
授業科目名	基礎看護学方法論Ⅷ			担当教員	橋田 まゆみ（1～4） 山口 利貴枝（5～14）
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	2年 前期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		橋田：実務経験：有、病院勤務（看護師）10年 山口：実務経験：有、病院勤務（看護師）16年	
授業概要					
健康障害のある対象の治療方針が決定され、安心して安全・安楽に診療を受けられるように、また、治療効果が上がるように援助することは看護師の重要な役割である。薬物療法において、解剖生理学、薬理学、看護物理学の知識をもとに、安全・安楽な科学的根拠のある援助方法と与薬後の観察の視点を学ぶ。注射における身体的侵襲による対象の苦痛に配慮できる態度を学び、正確で安全な与薬技術を修得する。					
到達目標					
1. 診療補助技術における看護師の役割を説明できる。 2. 各診療補助技術に関わる根拠を解剖生理学やフィジカルアセスメント、薬理学の既習知識を活用し説明できる。 3. 診察、検査、治療が対象者に与える身体的・心理的影響を理解し、各診療補助技術を安全・安楽に提供する方法を説明できる。					
回数	単元		内容		
1	与薬に関する基礎知識		1) 薬物療法の理解 2) 薬物療法を受ける患者への技術 3) 薬物療法における看護師の役割 4) 薬の取り扱い		
2	ADME 各与薬法の技術①		1) 吸収から排泄までのメカニズム 2) 口腔内与薬（経口薬・舌下薬）（初回通過効果）の技術 3) 皮膚用製剤（塗布・貼付）の技術 4) 点眼、点鼻、点耳、吸入法		
3	各与薬法の技術の実際		【演習】 経口与薬法、皮膚用製剤の塗布・貼付の技術の実際（模擬患者への実践）		
4	各与薬法の技術②		【演習】 1) 直腸内与薬の技術 解剖・生理、基本的方法 2) モデル人形を用いて直腸内与薬の実践		
5	各与薬法の技術③ 注射法の基礎知識		1) 注射法の理解 2) 注射法を受ける患者への技術 3) 注射法における看護師の役割		
6	注射法の技術の実際①		【演習】 皮下注射の技術の実際		
7	皮下注射		1) 注射器（シリンジ）、注射針の取り扱い、アンプルカット、薬液の吸引 2) モデル人形・模擬患者に基本的な注射方法（注射部位、角度、注入）を実践する。		
8	注射法の技術の実際②		【演習】 筋肉内注射の技術の実際		
9	筋肉内注射		1) 注射器（シリンジ）、注射針の取り扱い、バイアル、薬液の溶解、吸引 2) モデル人形・模擬患者に基本的な注射方法を実践する。		
10	輸血の基礎知識		1) 輸血の目的、種類、保存期間、保存方法 2) 輸血の副作用 3) 交差適応試験		
11	各与薬法の技術④ 注射法の基礎知識		1) 静脈内注射の技術 2) 点滴法 3) 輸液ポンプ、シリンジポンプの特徴・適用を知る		
12	注射法の技術の実際③		【演習】 静脈内注射の技術の実際		
13	静脈内注射		1) 注射器（シリンジ）、注射針の取り扱い、アンプルカット、薬液の吸引 2) モデル人形を用いて基本的な注射方法（注射部位、角度、注入）を実践する		
14	注射法の技術の実際④ 静脈内点滴注射の調整技術		【演習】 1) 手動での輸液滴下調整法 2) 輸液ポンプ、シリンジポンプでの滴下調整法の機械操作		
15	評価		客観テスト・解説		
評価		客観テストによる評価70%、レポートによる評価30%			
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書院） 看護が見えるVol.1①② 基礎看護技術（MEDIC MEDIA）			
参考図書など		適宜紹介する			

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2025年度
授業科目名	基礎看護学方法論Ⅻ		担当教員	監物 直子	
単位数	1単位	時間数	15時間	履修時期	2年 前期・後期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、病院勤務(看護師)9年	

授業概要

臨床判断能力は、看護師に求められる能力の1つとして求められる。臨床現場で起こりうる対象の変化を認識し、必要な看護を判断、実践できる能力を培う看護師が臨床で「気づき」「解釈」を通して、実践につなげていく思考過程を臨床判断モデルに沿って思考過程を学ぶ。
DVD教材や実習での体験等を活用し、臨床判断を行うための基礎的能力を身につける。

到達目標

1. 臨床推論と臨床判断を説明することができる。
2. 臨床判断モデルを説明することができる。
3. 既習の知識と実習でに体験を統合し、臨床場面の变化に気づき、その意味や現象を解釈することができる。
4. リフレクションやグループワークを通して、自身の看護実践を振り返ることができる。

回数	単元	内容
1	臨床判断とは	1) 臨床判断 (1) 臨床推論と臨床判断 (2) 臨床判断モデル
2	気づくラウンド①	1) 臨床判断「気づく」トレーニング 日常生活行動「排泄」を支援するための情報に“気づく” ケース1：排泄の援助場面
3	気づくラウンド②	1) 臨床判断「気づく」トレーニング 日常生活行動「排泄」を支援するための情報に“気づく” ケース1：排泄の援助場面
4	気づくラウンド③	1) シミュレーション演習 (1) 事例：慢性閉塞性肺疾患（COPD）-臨床判断モデルを活用して-
5		
6	リフレクション①	1) リフレクション 2) 行為についてのリフレクションと行為のなかのリフレクション 3) リフレクションに必要なスキル 4) リフレクションの方法 2) 基礎看護学実習Ⅲの経験をリフレクション (1) 臨床判断モデルを活用して
7	リフレクション②	1) 基礎看護学実習Ⅲの経験をリフレクション (1) グループ発表 学びの共有
8	評価	客観テスト

評価	客観テストによる評価70% 提出物30%
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学2（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学3（医学書院） 看護がみえる④ 看護過程の展開（MEDIC MEDIA）
参考図書など	適宜紹介する

学校名		茅ヶ崎看護専門学校		学科名	看護学科	開講年度	2025年度
授業科目名		地域・在宅看護論方法論Ⅲ			担当教員	川北 千鶴	
単位数	1単位	時間数	15時間	履修時期	2年 後期		
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数			有、病院・訪問看護勤務(看護師 20年)		
授業概要							
在宅看護の特徴として、疾患中心とした問題解決ではなく対象の生き方や望みを把握し、生活を重視した目標達成志向での看護過程であることを学修する。また、療養者、家族の思いや生きがい、大切にしたいことを中心に家族の介護力、家族の心身の健康状態、生活環境、経済状況と社会資源の活用状況におけるアセスメントをすることによって全体像を捉え、対象の生活への影響、今後の予測について学修する。							
到達目標							
1. 在宅看護過程では、医療と生活の側面を目的としていることを説明することができる。 2. 事例を通し、対象の疾患と制度・社会資源を説明することができる。 3. 在宅看護過程の構成要素とその特徴について説明することができる。 4. 国際生活機能分類（ICF）、ストレングスモデルの活用とその必要性について説明できる。 5. 在宅看護のアセスメントの視点を説明することができる。 6. 対象の強みを活かし、生活を維持できる計画立案の必要性を説明することができる。 7. ケアの継続性の視点から評価・修正の必要性を説明することができる。							
回数	単元			内容			
1	第1章 在宅看護過程の展開			在宅看護の展開方法①在宅看護の特徴②情報収集とアセスメント 目標の設定・計画④実施と評価			
2	第2章 在宅看護の事例展開(1)			療養者に対する在宅看護の事例展開①疾患理解②事例紹介③情報の整理			
3	第3章 在宅看護の事例展開(2)			国際生活機能分類（ICF）、ストレングスモデルを用いて対象の強みを考える			
4	第4章 在宅看護の事例展開(3)			事例展開 アセスメント(身体的側面)(精神的側面) ICF疾患関連図			
5	第5章 在宅看護の事例展開(4)			事例展開 アセスメント(環境・生活の側面)(家族・介護状況の側面)			
6	第6章 在宅看護の事例展開(5)			事例展開 制度、社会資源の理解（エコマップの作成）			
7	第7章 在宅看護の事例展開(6)			事例展開 支援計画の立案 まとめ 「到達目標」達成状況の確認			
8	評価			客観テスト・解説			
評価		客観テストによる評価50% 提出物50%					
教科書		系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践（医学書院） ナーシング・グラフィカ地域 在宅看護論 ①地域療養を支えるケア（メディカ出版） リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術（医学書院）					
参考図書など		適宜紹介する					

学校名	茅ヶ崎看護専門学校		学科名	看護学科	開講年度	2025年度
授業科目名	小児看護学概論			担当教員	村上 ヒトミ (1、13～14) 石井 淳子 (2～12)	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年 後期	
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数			村上 実務経験：有・病院勤務（看護師）13年 石井 実務経験：有・病院勤務（看護師）17年	

授業概要

子どもと家族を取り巻く環境とその変化について学び、小児看護の理念と特徴について学修する。子どもの成長・発達に影響する因子、成長・発達の評価、発達段階各期の形態的、生理的、知的、情緒的特徴等について学修し、小児看護の対象である子どもと家族の理解を深め、小児看護の概念と役割について学修する。また、子どもを取り巻く社会と、子どもや家族への適切な支援の概要を学修する。

到達目標

1. 小児看護における理念および特徴について表現することができる。
2. 子どもの成長・発達に影響する因子をふまえ成長・発達の進み方を説明することができる。
3. 小児および家族への支援について表現することができる。
4. 小児および家族の必要な法律および支援について表現することができる。

回数	単元	内容
1	第1章 小児看護の理念と特徴	①小児看護の目指すところ ②小児看護の諸統計 ③小児看護の変遷 ④小児看護における倫理 ⑤小児看護の課題
2	第2章 子どもの成長・発達	①成長・発達とは ②成長・発達の進み方 ③成長・発達に影響する因子 ④成長の評価 ⑤発達の評価
3	第3章 新生児	①形態的特徴 ②身体生理的特徴 ③各機能の発達 ④養育および看護
4	第3章 乳児（1）	①形態的特徴 ②身体生理的特徴 ③感覚機能 ④運動機能 ⑤知的機能 ⑥コミュニケーション機能 ⑦情緒・社会的機能 ⑧養育および看護
5	第3章 乳児（2）	
6	第4章 幼児（1）	①形態的特徴 ②身体生理的特徴 ③感覚機能 ④運動機能 ⑤知的機能 ⑥コミュニケーション機能 ⑦情緒・社会的機能 ⑧養育および看護
7	第4章 幼児（2）	
8	第4章 幼児（3）	
9	第4章 学童（1）	①形態的特徴 ②身体生理的特徴 ③感覚・運動機能 ④知的・情緒的機能 ⑤社会的機能 ⑥不適応行動・症状 ⑦学童を取り巻く諸環境 ⑧養育および看護
10	第4章 学童（2）	
11	第5章 思春期・青年期（1）	①形態的特徴 ②身体生理的特徴 ③知的・情緒（心理）的・社会的機能 ④生活の特徴 ⑤心理・社会的適応に関する問題 ⑥飲酒・喫煙 ⑦性に関する健康問題 ⑧反社会的・逸脱行動 ⑨事故・外傷 ⑩思春期の看護
12	第5章 思春期・青年期（2）	
13	第6章 家族の特徴とアセスメント	①子どもにとっての家族とは ②家族アセスメント
14	第7章 子どもと家族を取り巻く社会	①児童福祉 ②母子保健 ③医療費の支援 ④予防接種 ⑤学校保健 ⑥食育 ⑦特別支援教育 ⑧臓器移植
15	評価	客観テスト・解説

評価	客観テストによる評価
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論【第14版】（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ看護学[2]小児臨床看護各論【14版】（医学書院） 看護実践のための人間発達学（医学書院）
参考図書など	適宜紹介する

学校名		茅ヶ崎看護専門学校		学科名	看護学科	開講年度	2025年度
授業科目名		母性看護学方法論Ⅲ			担当教員	及川 美穂	
単位数	1単位	時間数	15時間	履修時期	2年 後期		
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数			実務経験：有、病院勤務（助産師）： 6年		
授業概要							
母性看護学概論、母性看護学方法論の学習を基盤とし、事例を用いて産褥期・新生児期の健康課題を総合的に理解し、健康状態を維持・向上できるための支援を学修する。母性看護の対象は周産期にある女性と新生児および家族である。分娩は女性のライフサイクルにおいて大きなライフイベントであり、出産により本人のみならず家族の役割も大きく変化する。ウェルネスの視点で看護を考えること、対象者自らが健康課題を解決するセルフケアの必要性を理解する。看護実践に必要な基礎的知識、態度、技術について学修するとともに女性とその家族の一生の健康を維持、向上するための継続看護における看護の役割を理解する。							
到達目標							
1) 紙上事例で褥婦・新生児の健康状態を査定することができる。 2) 褥婦・新生児・その家族の健康課題に対するセルフケアを含めた支援方法を説明することができる。 3) 褥婦の母親役割獲得過程に必要な支援を説明することができる。 4) ウェルネスの視点を踏まえ、継続看護を含めた母性看護の役割を説明することができる。							
回数	単元			内容			
1	母性看護の特性と役割			(講義) 母性看護における対象理解と看護の役割 (演習) 紙上事例の紹介、対象理解に必要な情報収集			
2	ウェルネスの視点に基づいた母児の健康課題の抽出(1)			(演習) ①産褥期の情報収集・アセスメント・健康課題と援助の方向性 ②新生児期の情報収集・アセスメント・健康課題と援助の方向性			
3	ウェルネスの視点に基づいた母児の健康課題の抽出(2)						
4	ウェルネスの視点に基づいた母児の健康課題の抽出(3)						
5	母児とその家族に必要な支援			(演習) ①母親役割獲得過程に必要な支援 ②セルフケアを踏まえた支援 ③継続看護における母性看護の役割			
6	母児への援助			(演習) 母児への援助計画の立案			
7	新生児に必要な看護技術			(技術演習) 新生児のバイタルサイン測定・全身状態の観察			
8	評価			客観テスト			
評価		筆記試験による評価50%、提出物50%					
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論 (医学書院)					
参考図書など		適宜紹介					

学校名	茅ヶ崎看護専門学校		学科名	看護学科	開講年度	2025年度
授業科目名	生活機能学			担当教員	増田信代	
単位数	1単位	時間数	15時間	履修時期	1年 後期	
授業形態	講義	実務経験の有無・職種・年数			実務経験：有、病院勤務（看護師）16年	

授業概要

看護過程の展開に活かすための人体の構造の理解のしかた、機能のとらえかたについて学ぶ。前期に習得した人体の構造と機能の知識を生活者としての人間にあてはめ、どのようなからだの構造と機能を使って日常生活を営んでいるのかを学び、看護が必要となった際に、対象の「身体」をどのようにとらえていくべきかを学ぶ。

到達目標

1. ひとが生活するための「動く」「食べる」「排泄：排尿」「排泄：排便」「コミュニケーション」「眠る」「入浴する」の構成要素を述べるができる。
2. 上記を構成する要素の各機能を説明することができる。
3. 各日常生活とからだの機能をグループワークを通して学び、要点を説明することができる。

回数	単元	内容
1	生活機能学スタートガイド	1) 9項目の行動の意味 2) 9項目の各生活行動を構成する「からだ」の機能（自分の身体を使って日常生活の行動を表現する）
2	日常生活行動とからだの形態・機能②	日常生活行動を構成する「からだ」の構造
3	日常生活行動とからだの形態・機能③	日常生活行動を構成する「からだ」の構造 「基礎看護学実習Ⅱ」で受けもつ他患者の理解
4	日常生活行動とからだの形態・機能④	日常生活行動を構成する「からだ」の構造 「基礎看護学実習Ⅱ」で受けもつた患者の理解
5	日常生活行動とからだの形態・機能⑤	グループで取り組む項目の精選
6	日常生活行動とからだの形態・機能⑥	各グループで取り組んだ学びの共有
7	日常生活行動とからだの形態・機能⑦	各グループで取り組んだ学びの共有
8	評価	発表

評価	提出物（70％）、発表課題（30％）
教科書	系統的看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学（医学書院） 系統的看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論（医学書院） 新体系看護学全書 人体の構造と機能③ 形態機能学（メジカルフレンド社） 形態機能学（日本看護協会出版会）
参考図書など	日常生活行動からみるヘルスアセスメント（日本看護協会出版会）